

の火災記にも古餌指町と記載す。又同六年の士帳には堀川古ゑさし町とあり。舊藩國初の頃、此の地にて餌指共の居邸を賜はりしかど、後淺野町の地なる餌指町へ移轉を命ぜられたり。故に此の地をば古餌指町と稱し、地子地と成りしものなりといへり。但し、舊藩の諸記録中に移轉の事所見なし。故に其の時代年曆等詳かならず。

○餌指來歴

餌指といふは、舊藩中は鷹の飼餌となす小鳥を取る者をいへり。慶長十年利長卿富山養老附士帳に、御鷹師の末に、

一、二拾五石 ゑさし 仁 助

御餌指

一、拾三俵 彦 市 一、拾三俵 與 吉  
一、同 助 市 一、拾五俵 與 七  
一、拾五俵 藤右衛門 一、同 彦五郎  
一、同 與三郎 一、同 喜 藏  
一、拾 俵 市 內 一、拾 俵 萬右衛門  
一、同 小 八 一、拾 俵 又 藏

金銀被下衆

一、銀五枚 高麗ゑさし 清 六  
一、同 同 久 次  
右の中にも、萬右衛門は金子萬右衛門、小八は成瀬小八、清六は市村清六、久次は小川久次といへり。此の四人は皆高麗者にて、朝鮮陣の擒共也。今越中魚津に餌指町といふあり。利長卿慶長十年に富山へ隠居し給ふ處、同十五年三月富山火災に付き、魚津城へ立退き、高岡築城の間暫く魚津に居給へり。此の時供奉の餌指共居たるゆゑの遺名なるべし。慶長十七年十月十七日の定書に、  
一、鷹師并ゑさし・いぬ引以下於有之、  
儀、不可有之事。  
同廿年三月五日の定書に、  
一、御鷹師・御ゑさし已下によらず、金澤奉行衆より墨付無之儀申懸候もの改候事。

按するに、新井白石の紳書に、慶長四年利家卿薨後の事を記載して、利長日頃鷹獵を深く好みたる人なりと載せたる如く、利長卿は殊に鷹獵を好み給ひけん。村井長明の象賢紀略に、大納言様御逝去の其年七月初頃、津の國へ利長様

御鷹野に御越候て、あかしまで御越被成候云々。また、其の年八月肥前様加州・越中へ御鷹野に御下被成候。はやく大納言様御遺言御ちがへ候。御運之末かと村井豊後・奥村伊豫など笑止がり被申候事。と見え、關屋政春古兵談に、利長卿はや八月廿八日大坂を御立ち御下國也。金澤に十日許御逗留にて、富山へ御越被成、御鷹野にて御遊山也。とあるにても、放鷹を好み給へる事知られけり。されば此の時代に、逸物の鷹共を多く繋がれたるなれば、餌指も多く扶持し給ひしなるべし。中にも高麗餌指といふは、朝鮮渡來の人々にて、金澤町會所留記に載せたる寶永三年九月高麗網張等取調書に如左あり。

高麗網張様之儀、并市村七兵衛先祖並之者共儀、夫々相尋候趣、左に記上之申候。  
一、七兵衛曾祖父市村故清六儀、高麗者に御座候處、右御陣之刻擒に罷成候。瑞龍院様御代に被召出、殺生御用被仰付置候處、病死仕候。右御切米之員數并死去仕年號等不相知由申候。祖父市村故十右衛門儀、清六爲跡目被召出、御切米拾三俵餘被下置、殺生御用被仰付處、寛永二拾年病

死仕候。右爲跡目、父十右衛門儀、微妙院様御代被召出、祖父十右衛門御切米之通拜領仕、御鷹匠組に被仰付、殺生御用相勤、御鷹野御供にも罷出申候。下略。

一、金子先萬右衛門儀、高麗者に御座候。右御陣之刻、毛利安藝守殿手に而擒に罷成候處、瑞龍院様御代被召出、御徒組に而御切米二拾六俵被下置、殺生御用被仰付、大坂御陣之御供并江戸御供も相勤、慶安五年病死仕候。右爲跡目、せがれ故萬右衛門儀、微妙院様御代被召出、父御切米之通拜領仕、御鷹匠組に被仰付、殺生御用相勤候。下略。

一、小川七承祖父小川故久次儀、高麗者に而御座候。右御陣之刻、加藤肥後守殿手に而擒に罷成候處、瑞龍院様御代被召出、小扶持被下置、寛永十五年病死仕候。殺生御用は相勤不申候。せがれ故七郎左衛門儀、寛永十五年御徒並に被召出、御切米四拾俵被下置、金子先萬右衛門殺生網上手に候間、見習可申旨被仰付、殺生御用之節罷出候處、其以後火矢御用被仰付候而、殺生御用は相勤不申候。承應二一年に御知行百五十石被下置、寛文六年病死仕候。下略。

一、高麗當孫三郎祖父先々孫三郎儀、高麗者に而、金子先